

# やけどに注意

## やけど事故を防止するために

- ・加熱操作を伴う実験では、実験終了後、冷めるまで加熱した器具類に触らない。
- ・液体を加熱している試験管の口は、人のいないほうに向ける。
- ・試験管で液体を加熱するときは、突沸しないように沸とう石を入れ、試験管を小刻みに振る。
- ・必ず立って実験をさせる。

## 関連単元

- みんなで使う理科室
- 7.ものの温度と体積
- 8.もののあたたまり方
- 9.水のすがた
- 6.もののとけ方（5年）
- 1.ものが燃えるとき（6年）
- 2.植物のつくりとはたらき（6年）
- 5.水よう液の性質（6年）

## やけど事故の原因を知ろう

- ・加熱中、加熱後の器具等に触れる…実験用ガスコンロ、ガスバーナー、ライター、アルコールランプ、マッチ等
- ・ショート回路に触れる。
- ・加熱された器具等に触れる…金属球、金属輪、金属棒、三脚、金網、鉄製スタンド、試験管、溶けた蝋等
- ・熱い湯がかかる…児童の注意が散漫になっているときに多い。

## 応急措置

重いやけどでなければ、徹底的に冷やすことが大切である。水道水や氷水で患部を十分に冷やす。冷やすことにより、患部の悪化を防ぎ、治りが早くなる。

患部が衣類におおわれているときは、やけどの程度により衣類を脱がすか、はさみで切り裂くかし、患部を清潔な布でおおうとよい。

### 〈やけどの程度と応急処置〉

- ・やけどの程度に応じて、応急処置をしたあと、すぐに医者の手当てを受ける。
- |  |   |
|--|---|
| 1度……皮膚が赤くなる。<br>ひりひり痛む。                | ⇒ 冷水で10～20分冷やし続ける。(衣服の上から水をかけてもよい)  |
| 2度……水ぶくれ(水泡)ができる。<br>強い痛みと灼熱感がある。      | ⇒ 冷水で20～30分冷やし続ける(水道水で冷やすときは、水泡が破れないように、水流を直接患部にあてないようにする)。水泡を破らないようにアクリノール液を塗って、軽く包帯(清潔な布)をする。 |
| 3度……皮膚が黒く焼ける。<br>患部がしびれ、針をさしても痛みを感じない。 | ⇒ 乾いたガーゼで包み、すぐに医者の手当てを受ける。これは重いやけどで、範囲が広いほど生命の危険があり、早急に救急連絡して病院へ運ぶ。                             |

### ※注意すること

- ・衣服などでこすって、傷口を広げないようにする。
- ・顔の目の近くのときは、目をこすらず、目の上をぬれタオルで冷やし、医者に診せる。

### ◎やけど事故が起きたときの一般的な処置

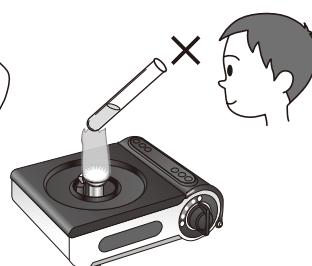
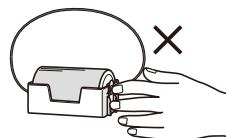
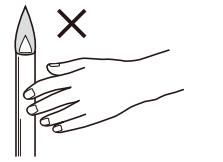
落ち着いて内容を正確に把握する⇒適切な応急処置をする⇒他の児童を落ち着かせる⇒養護教諭に連絡し、診てもらう⇒校長に連絡する⇒家庭に連絡する。

※各学校で安全管理マニュアルを作成しておく。

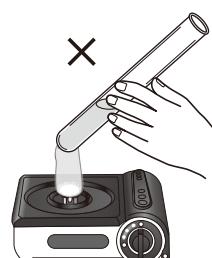
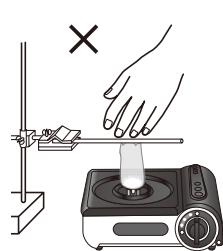
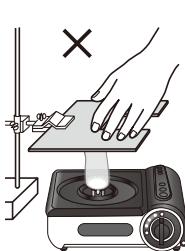
# やけどに注意

## ● やけどをしないために

- ・使用中や使用直後のガスバーナーのつつの部分にはさわらない。
- ・熱くなつたどう線にさわらない。
- ・ろうそくを使うときは、とけたろうが手にあたらないように気をつける。
- ・熱い湯を使うときは、湯がとびちらないように気をつける。
- ・試験管の口を人のほうへ向けない。
- ・試験管で水などを加熱するときは、ふつとう石を入れる。



- ・加熱した器具類には、実験中はもとより実験が終わっても冷めるまではふれない。



## ● やけどをしたときは

- ・本人、または近くの人が、すぐ先生に知らせる。
- ・すぐにやけどをしたところを水道水(冷水)<sup>れいすい</sup>で10分以上冷やす。  
強い水流をあてるとよくないのでかけんする。  
△水ぶくれができているときは、水ぶくれがやぶれないようにするために、水流をじかにやけどをしたところにあてない。

